SAKAI WO KOETE
境を越えて

Supported by
日本財団
THE NIPPON FOUNDATION

“地域生活の視点で学ぶ重度障がい者の暮らし”カリキュラム化プロジェクト第１報

―実施経過分析からの成果と課題―

NPO法人境を越えて　本間里美

共同演者：海老原宏美,岡部宏生,千葉早耶香,
川村由里,向山佳奈,櫻井こずえ

日本医療難病ネットワーク学会
IOC開示
筆頭発表者名　本間里美

演題発表に関連し、
開示すべきIOC関係にある企業などありません

背景

“地域包括ケアシステム構築”実現（2025年目標）

【急務の課題】　介護と医療の**連携構築**・在宅医療・福祉の充実に貢献できる人材育成

✓ 連携構築の考え方は、多職種間で連絡を取り合う一繋がりではなく、互いの専門性を理解し相互に結合すること
✓ 障がいの重症度が増すほど“その人がどう生きたいか？”を支えられる視点を中心におくこと

参考）筒井孝子論考集 地域包括ケアシステムの理論と政策
参考）成木弘子:地域包括ケアシステムの構築における “連携” の課題と “統合” 促進の方策,保健医療科学　2016 Vol.65 No.1 p.47－55
参考）Valentijn PP, Schepman SM, Opheij W, Bruijnzeels MA. Understanding integrated care: a comprehensive conceptual framework based on the integrative functions of primary care. Int J Integr Care. 2013; 13:8. http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/ PMC3653278/ (accessed 2016-1-5)

【現状】　重度訪問介護の専門性の理解は乏しい
介護と医療の連携構築は、障がいの重症度が増すほど稀薄になっている
↓
当事者は、地域で暮らし続けることが難しくなっている

【本プロジェクトの目的】　在宅医療・福祉の充実に貢献できる人材の土台形成

【本プロジェクトの目標】
保健・医療・福祉専門教育課程に、地域で暮らす当事者の生活を主軸に多職種連携の実際を学び、
障がいを社会モデルで探求するカリキュラムを導入すること

【プロジェクトの位置づけ】

“重度障がい者（難病患者含む）へのケアの体系化と専門教育課程への導入”（日本財団助成事業）

ー大学・専門学校でのモデル授業プロジェクト

【3か年計画】

1年目：モデルカリキュラムの作成と実施大学、専門学校との協力関係の構築

2年目：協力大学、専門学校３校でのモデルカリキュラムの実施とブラッシュアップ

３年目：全国5か所でのモデルカリキュラム実施と他大学への周知

【モデルカリキュラム作成方法】

プロジェクトチームと外部評価者にて意見交換を繰り返し作成した。

1. プロジェクトチームメンバー構成
   学生介助経験者 6名(看護師３作業療法士２一般１)/在宅医療経験者1名(理学療法士)
   地域で暮らす当事者2名(ALS１/SMA１)
2. 外部部評価者メンバー構成
   保健・医療・福祉養成校教員６名、教育系大学教員２名、神経難病専門研究・現職者３名、当事者６名

【開催費用】助成金活動費からの計上で実施大学、専門学校での費用負担は無し

【開催方法】座学：開催大学・専門学校教室又は実習室を基本とし、状況によってオンラインでの講義を実施

見学・体験：開催大学・専門学校近隣の当事者宅

モデルカリキュラム作成ーモデル授業実施までの経過

20.4 - 5　【事前調査】学生介助経験者向けアンケート調査実施
目的:重度訪問介助経験が職業スキル、その後の生き方に与える影響を調査するため
対象：学生介助経験者45名　　方法：ウェブアンケート

20.5 -10　【検討会】プロジェクトチーム、外部評価者らとの検討会開催（5回）
検討内容：アドミッションポリシー/ディプロマポリシー/カリキュラムポリシーの決定

20.10-21.3【検討会】　外部評価者からのフィードバックと内容ブラッシュアップ（１３回）
検討内容：開催日数、カリキュラム構成、表現方法、見学・体験方法、運営方法

2021.3 - 5　【テキスト作成】作成MTGの実施（4回）

2021.1 - 7　【模擬講義】講義担当者の練習会（5回）
【開催大学との運営方法調整】MTG（3回）、電話、メール、書面のやりとり等

※検討会・MTGはウエブにして実施

帝京平成大学：フレッシュセミナー単位（選択教科）
対象：看護学部1年生　19名　時期：2021.8.16-24

横浜リハビリテーション専門学校（特別授業）
対象：PT/OT学科2年生　7名時期：2021.9.21-24

【予定】東北文化学園大学（特別授業）
対象：PT・OT・ST・看護・ME学科医療福祉学部学生対象　20名　時期：2022.3

モデルカリキュラム内容

【アドミッションポリシー】

保健・医療・福祉を目指す学生（医師/看護師/保健師/PT/OT/ST/臨床工学士/介護福祉士/社会福祉士等）

【カリキュラムポリシー】

夏休み、春休み期間中に参加できる**5日間の短期集中講座**

【構成】座学３日（15 時間）当事者宅での見学・体験２日（6 時間/１日）
【座学講師】地域で暮らす当事者　/　重度訪問介護に携わる介助者　/　訪問医療経験がある医療者（計６名）
【座学の組み立て】地域で暮らす当事者の生活を主軸とし、社会の仕組み、多職種連携、インクルーシブ
【見学・体験の工夫】フェイスシートの活用による事前情報把握/質問項目の検討による主体的な関わり
mission設定による個別体験

【ディプロマポリシー】

１）地域生活の視点で重度身体障がい者の暮らしを理解できる保健・医療・福祉専門職を育成する

２）“地域包括ケアシステム構築”に必要不可欠な在宅医療・福祉の充実に貢献できる人材を育成することができる

３） 障がいを社会モデルで捉え、誰もが住みやすい社会構築に必要な多様性のある人材を育成することができる

モデル授業実施のための連携構築と関係性の整理

①実施内容説明・相談（2021.2）
-開催時期・対象学年決定（2021.5）
-開催方法決定（2021.6）
-同意書、依頼状取り交わし

NPO法人境を越えて

⑤学生×当事者マッチング－1名の当事者に2名の学生の見学体験日程調整

④参加希望者情報共有
- 受け入れを20名に増員

帝京平成大学（外部評価者）

③参加希望提出
－対象予定、10名に対し
54名の希望あり

②学生への周知（2021.6）
-対象:看護学科156名
-方法:チラシ配布と説明10分

学生

①見学・体験当事者候補への説明
- 重度訪問介護の対象者8名全員より受け入れの承諾を得る
（2021.6）

⑥同意書の取り交わし
✓ 個人情報の保護
✓ 万一の責任の有無
✓ 行事保険への加入

見学・体験
受け入れ当事者

感染対策

受講2週間前からの検温記録（家族の発熱情報等も含む）/　受講直前のPCR検査の実施　/ワクチン接種の有無の確認

本報告開催大学情報
帝京平成大学フレッシュセミナー単位（選択）対象：看護学部1年生19名　　時期：2021.8月16-24

1日目の実施内容

【目標】地域で暮らす重度身体障がい者の実際の生活、保健・医療・福祉の仕組み、地域での役割を理解する

【カリキュラム内容】

1．地域で暮らす重度身体障がい者、どんな生活？（60分）
　1）【考えよう】障がいってなんだろう？（ALS/全介助/24時間呼吸器装着）から想像してみよう
　2）1日のスケジュールを知ろう
　3）1日を支える支援者たち

2．地域で暮らす社会の仕組み医療編（120分）
　1）地域で働く医療者たち
　2）地域で求められる医療者とは？
　3）地域で暮らすを支える医療
　4）地域で働く医療者に必要なネットワーク

3．地域で暮らす社会の仕組み福祉編（120分）
　1）地域で暮らすということ　※住居問題など
　2）地域で暮らすを支える制度　※制度の絡み
　3）地域で暮らす私達　※当事者であるから伝えられること

2日目の実施内容

【目標】地域で暮らす重度身体障がい者を支える介助者の視点、多職種連携の必要性を理解する

【カリキュラム内容】

1．介護と介助の違いがあるとしたら何だろう？（60分）
　1）介護と介助の考え方
　2）地域で暮らすを支える介助、私達の視点

2. 様々なコミュニケーション方法を知ろう（90分）
　1）コミュニケーションとは？
　2）発話が難しい重度障がい者とのコミュニケーション方法（体験含む）

3. これだけは押さえておこう、疾患あれこれ
　1）医療編(90分)
　2）介助編(60分)
　※身体のこと、心のことの大項目に分け
　　医療と介助のそれぞれの視点で解説

4. 見学・体験に向けた準備（60分）
　1）体験先当事者の紹介、実習中のmissionについて
　2）事前情報から体験当事者の生活について質問を考える
　3）見学・体験時のマナーについて

見学・体験に向けた事前準備

①このカリキュラムを選択した理由
-受け入れ側の心の準備として

②見学・体験してほしいことリスト提示
-その時の状況によって対応変更可能なように

③フェイスシート情報から事前の質問を考える
-伺った時に主体的に関われるように

【知ろう】フェイスシート　2021 年 6 月現在

氏名	[redacted]	生年月日	1992 年 2 月 2 日（29 歳）
		脊髄性筋萎縮症Ⅱ型（SMAtype2）	

◆性格
・自由気まま　・真面目
・好奇心旺盛
・フランクだけど人見知り
・考えるよりも行動派
・人を大事にする

◆趣味、特技、大切なもの
・食べること、料理（メキシコ料理にはまっています）
・音楽（ロック、パンク系）
・英語
・香り（アロマ、お香）

◆人生歴
・就学前は保育園、小中は特別支援学校に通う
・高校からは普通校に通う
・18～2
・26 歳
・帰国後、
・2021 年 4 月事務所を立ち上げ

◆病歴
・1 歳手前に発症
・子どものころからあまり悪化することなく過ご
医療機器の使用は無い

見学・体験受け入れ当事者

◆生活環境、取り巻く支援の輪
・一人暮らし（24 時間 365 日介助者が入る）
・事務所（徒歩 25 分）へ通い仕事をする
・介助者 13 人くらい
・訪問歯科
・訪問リハビリ

◆介助者に求める心構え
【だん介助の基本箇条】10 箇条から抜粋
2．コミュニケーションをとる
4．わからないことは聞く
7．仕事という自覚を持ちつつ、リラックスする
※自宅の壁に貼ってあります！探してみてくださいね～

◆一日の過ごし方　（ある日①）
10:30 起床
11:00 入浴
12:00 訪問歯科
14:00 授業@事務所
15:00 昼食
16:00 授業@事務所
18:00 夕食
20:30 授業@事務所
22:00 帰宅
23:00-3:00 自分の時間
3:00 就寝

（ある日②）
13:00-14:00 起床
15:00-20:00@事務所
事務仕事、授業の準備、個人依頼の仕事
21:30 買い物しながら帰宅
22:30 おつまみを作って晩酌

◆ADL/IALD
・PC、携帯操作と移動以外は全介助（しかし、全て自分の指示のもと行ってもらいます。）
・買い物や料理は自分も好きので、介助者と一緒にやります。

◆コミュニケーション方法
・発話
・介助者へのお知らせなどがある時は、自宅に貼ってある QR コードを読み取って確認してもらっています。自分で随時更新しています。こちらもどこにあるか探してみてくださいね！

実習記録用紙内容
【考えよう】障がいってなんだ？Before－After
【やってみよう】
①マナーチェック
②当事者・介助者への質問（質問内容・返答内容・感じたこと）
③mission課題（mission内容・行った内容・感じたこと）
【考えよう】重度障がい者の介助に入るってどんなこと？
（ある当事者の介助者への想い）
【記録しよう】時系列での見学・体験記録

【目標】当事者宅での介助見学・体験を通し、地域で暮らす重度身体障がい者の実際を理解する
体験当事者の方の情報
ALS　3名/SMA　2名/筋ジストロフィー　1名/多発性硬化症と重症筋無力症の併発　1名

5日目の実施内容

【目標】座学、見学・体験の学びを経て、介助の視点の重要性、多職種連携の実際を自分の言葉で伝えられる
障がいとは何かについて考えを深めることができる。

【カリキュラム内容】
準備
・見学・体験当事者宅が異なる学生同士4グループに分けた
・各グループにファシリテーターを配置

１.実習経験談の共有（60分）
【GW1】 午後のグループワークに向けてのアイスブレイク、体験談の共有
2.障がいのAfter記録（30分）
3.障がいって何？当たり前の見方を変えてみよう（60分）
１）インクルーシブとは？
【GW2】2）自分自身の障がいについて考えてみよう
4.障がい観の変化について考えよう（30分）
【GW3】障がいのbefore,Afterをグループ内で共有し
“障がいについて考えを深める
5.体験発表会（50分）
グループ毎に障害の変化を発表してもらう
6.医療・福祉を目指す皆さんに伝えたいこと（40分）
～学生ヘルパー体験記～

結果１　グループ発表会内容より抜粋

●BEFORE 障害とは
“ネガティブなものでしかない”　“かわいそう”　“介助を受ける立場の人”

●その当事者の生き方について
“自分がやりたいことを普通にやっていた”
“自分達とあまり変わらない”
“介助者の方がいること、道具のサポートがあることで自分のやりたいことを実現できている”

●多職種連携の実際について
“介助者の方はいつでもその方の目を見て何をするにも接している。”
“ 介助者の方と看護師さんが患者さんの状態を共有している場面があった、様々な人達のサポートがあるから生活が可能であると肌で感じた”

●After障がいとは？
“考え方方次第でいくらでも変えられるもの”
“誰もが持っていて、自分もいつでも障がい者になりえるもの”

当事者と介助者の関係性構築　介護と医療の連携の実体験　障がい観の変化：個人モデルから社会モデルへの変化

結果2　開催後アンケート調査

学生（回答率100%）

●カリキュラム構成の満足度……大変満足94.7%,満足5.3%,普通0%,やや不満0%,不満0%
●講義の難易…とても適切21.1%,適切42.1%,普通31.6%,やや難しい5.3%,難しい0%
●講義の内容への興味関心…とてもある100%,ある0%,普通0%,ない0%, まったくない0%
●見学・体験時間…とても短い26.3%,短い47.4%,丁度良い26.3%,長い0%,とても長い0%

【感想・ご意見】
最初は障がい者の方が身近にいないから、という理由で参加しました。5日間特に実際にお家に行かせていただいたことがとてもありがたいことだったし障がい者と呼ばれる方々への考え方も大きく変わりました。かわいそうとか一切思わなくてむしろもっと一緒にいたい！！って思うくらい楽しかったですし、素敵な時間を過ごせました。

当事者（回答率80%）

●カリキュラムの目的・目標の明確性……大変明確100%,明確0%,普通0%,やや明確0%,大変不明確0%
●学生の積極性…大変積極的100%,積極的0%,普通0%,やや積極的でない0%,まったく積極的でない0%
●見学・体験時間…とても短い26.3%,短い47.4%,丁度良い26.3%,長い0%,とても長い0%

【感想・ご意見】
・学生さんの態度はとても良く前向きな姿勢が見られた
・皆さん真剣に現場というものを知ろうとしてくれる姿勢がうれしかったし、楽しかったです！
・次回はもっと踏み込んだ所までやってもらいたく、このカリキュラムが続く事を期待しています。

開催時の対応と開催後の状況

●予定対象人数が10名から19名へ増大に対応が可能であった。
●体験受け入れ直前のPCR検査の実施は、受け入れ当事者の安心に直結した（大学側の負担）
●見学・体験中に同居家族が濃厚接触者になった学生（一緒に体験していた学生含む）に対し、大学側と協議し2日目の体験は中止し遠隔での会話に切り替えた。
●開催終了後に4割の学生が実際に伺った当事者宅で介助者としてアルバイトをすることになった

成果

1. 外部評価者の内、医療福祉養成校教員全員から次回以降モデル授業開催希望あり。
2. 開催大学では、次年度以降の継続が決定。
3. モデル授業実施段階での単位化は、実際の教育現場での必要性が示唆された。

課題

1. 開催日数の検討
2. 講師、見学・体験当事者の確保
3. 波及のための仕組み作り

SAKAI WO KOETE
境を越えて

来年度活動予定概要（2022.日本財団申請内容）

●“地域生活の視点で学ぶ重度身体障がい者の暮らし”カリキュラム拡大のための仕組み作り

1. 講師、見学・体験受け入れ当事者増員のための説明会と勉強会の開催

時期：2022.4-8

場所：ウェブMTG形式

対象：講師人候補、見学体験受け入れ当事者候補者20名

内容：①開催準備1回　②開催10回

開催目的
本プロジェクト内容の質を保った状態で波及させるため。
ー講師資格制度なども検討

---

2. モデルカリキュラムの実施と連携構築

時期： 2022.8・9・11/2023.1・3

場所： 関東2件、地方3件

対象：保育園・幼稚園～大学

内容：①開催準備MTG各5回②開催5回③ブラッシュアップ各5回

対象を広げた理由
実体験と通したインクルージブ教育が義務教育課程に取り入れられることを長期目標と据えているため

---

3. カリキュラム開催ノウハウのパッケージ化

時期：2021.12-2023.2

配布先：連携協力団体・学校

発行部数：500冊

内容：①検討会5回実施し、カリキュラム指針を明示した上で、具体的な開催手順、参考テキスト等を盛り込む

パッケージ化の具体的な内容
講師人、開催側の教則本とテキストの書籍化を視野にいれたもの